

みつぎ便り

143号
8月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成30年8月1日 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/

見次公園と私

見次公園の開園とほぼ同時に志村の住人となった私は、六十五年余の歳月を公園と共に過ごし生活してきました。

働き盛りの一時期は公園とは疎遠になり、意識の片隅から消え去り、高度成長を支える労働者の一員として懸命に働いてきました。

そして、退職の時を迎え年金生活者の仲間となって、幼児期から私を育み育ててくれた地域社会に少しだけ恩返しのできたらと、再び見次公園と関わりを持つことになりました。

幼年期には池の岸辺でクチボソや小エビを網ですくい、スルメの足を紐に付けて、アメリカザリガニを釣りあげる遊びに没頭し、時には池に落ち近所の大学生に助けられてもらったりと色々な思い出があります。

早いもので、開園とほぼ同時期に植えられた池のほとりの桜も老木となりました。水面に枝先が触れんばかりに毎年花を咲かせ来園者を楽しま



せています。

池の生物も時と共に変わりクチボソやダボハゼなどが大幅に減少し、今ではカメと鯉とフナが中心となり、外来種の小魚も生息し昔からの生体系は大きく変わりました。

いつ頃からか判然としませんが、カルガモが住み着き初夏から真夏にかけて毎年沢山の雛を孵化させ、来園する人々を和ませています。



一昨年のみつぎ便り八月号では、見次公園の開園から初めての東京オリンピックの頃までについて触れてきました。二年後の東京オリンピックの頃には来日される外国のお客様に日本の地域コミュニケーションを見ただけならばと思つて活動しております。(安)

※上の写真は板橋区公文書館に所蔵されている昭和三十年代の写真です。左の写真は今年の写真です。